学校医会ニュース

校医

第554号　令和6年9月1日
発行所　京都市学校医会
京都市中京区間之町通竹屋町下ル
楠町601－1こどもみらい館2階
ＴＥＬ（075）256－0351
ＦＡＸ（075）241－3568
発行人　井本雅美

学校医会事務局のエアコン壊れる

会長　井本雅美

暑さはいつまで続くのでしょうか。今年の京都市は7月と8月の2ヶ月間に、一日の最高気温が35度以上になる猛暑日を39回記録しました。明治13年(1880年)の観測開始以来、最も多くなったようです。この期間中の京都市の最高気温は7月29日の39.4度でした。学校において教室によってはエアコン設定温度を下げても室温が28度以下にならなかったり、屋外活動が制限されたりと、暑さによる弊害がでているようです。

記録破りの暑さが続く7月23日のお昼過ぎ、こどもみらい館の学校医会事務局のエアコンが突然壊れました。25年前のエアコンで、部品の製造も保管期間も過ぎているため修理がいつになるかわからない。事務局だけエアコンを個別に取り付けることもできず、しかしエアコンなしではとても滞在できる環境ではないため、事務局の江浪さんには急遽午後より自宅からリモートで仕事をしてもらうことになり、理事会、色覚相談、精神衛生研究会、校医ニュース梱包作業などは、こどもみらい館課長のご厚意によりエアコンが使える貸し会場を借りることになりました。

7月30日、応急的にエアコンが修理され、事務局での通常業務に戻れましたが、設定温度を28度以下にするとまた室外機のベルトが切れて壊れるという不安定な状況、そしてそもそも28度設定では全く冷えない。しかしこどもみらい館は10月以降に全館のエアコン買い替えの予定なので、費用のかかる本格的な修理をしてもらうこと叶わず、暑い部屋で騙し騙しなんとか秋まで我慢することになりました。

そんな中、お盆休み明けの8月19日に別の原因による室外機不具合で、またエアコンが完全に使えなくなりました。業者の確認の結果、モーターが焼き付いている状況ということで、これで全館取り替えの10月以降、工事が終了するまでエアコンは使えない、ということが確定しました。

エアコンなしで過ごせる季節になるまで、事務局は基本リモートになりそうです。事務局への電話は江浪さんの携帯に転送されますが、FAXを確認することはできません。ご不便をおかけすることもあるかもしれませんが、学校医会活動に支障がないよう事務局は精一杯頑張っておりますので、ご理解いただければ幸いです。

9月7日に、養護教育研究会との懇談会が開催され、養護教育研究会側から幾つかの問題提起をいただきました。その中の1つに、やはり今年度からの「原則着衣」健診について、依然として児童生徒と保護者の不安が残っていること、学校医と合意形成をはかるのが難しかったことなどがあげられました。今後のため、健診を受ける側も健診を行う側も、できる限り不安を取り除きより良い健診にしていくため、今年度の状況を教えていただきたく、学校医の皆さんにアンケートを実施いたします。

同封されているアンケートに是非ともお答え下さいますよう、どうぞよろしくお願いいたします。

第75回指定都市学校保健協議会　　第3分科会「心の健康」

西京高校学校医　杉本　英造　　顧問　有井　悦子

協議題：児童生徒の豊かな心を育てるための教育活動と支援の在り方

1．心の健康のために子どもも大人も学び続ける学校のあり方　～生命（いのち）の安全教育を通して～

さいたま市立大久保東小学校　養護教諭
森永紅瑠実氏

児童養護施設や海外からの編入学の児童が多い特徴があり、身近な大人からの性被害や児童同士のプライベートゾーンを見る・触る・見せる・触らせる課題に対し生命の安全教育を学校全体で取り組んだ。①助産師をゲストティーチャーとして児童に専門的知識を伝える②児童と同じ場にいることで授業後も共通理解を図った言葉で健康相談・個別指導ができる③自分と友人の体はすべて大切、心と体の健康課題を教職員へ情報発信・問題提起することで児童が安心できる環境づくりができる。

2．保護者の視点から本当に必要なきょうだい（Siblings）支援　～川崎市医師会学校医部会と神奈川県下の家族会共同調査～

川崎市医師会　学校医部会　佐々木明徳氏

障害や疾患をもった子どもの兄弟姉妹は「きょうだい」と呼ばれ、親は介護に付きっきりになるため我慢して生活せざるを得ない。家族会8団体にインターネットで調査依頼し195名のきょうだい、祖父母同居あり9名、なしは125名。保護者自身も不安をかかえ、きょうだいの感情にも思い、学校不適応にならないよう心配している。きょうだいが主役になれる、親をひとりじめできる「きょうだいの日」を設けることが大事。学校医に期待することは、きょうだい児もほめてもらい自己肯定感を高める対応と病気や障害は特別ではないと教えてほしい。

3．心の健康・児童生徒の豊かな心を育てるための教育活動と支援の在り方について

北九州市立大積小学校・東郷中学校
学校医　香月きょう子氏

北九州市は政令市のなかで高齢化率32.1％と高く、死亡者も多い。20才未満の自殺者も増加傾向にあり、自殺予防対策の一環として、学校における自殺予防教育のすすめ方「だれにでも、心が苦しいときがあるから・・」リーフレットを活用し「心のもやもや度チェック」「もやもや攻略法」「伝えたい3つのメッセージ」を通してメンタルヘルスの基礎を実践。

4．系統的なカリキュラムに基づいた「心の健康」の指導　広島市立祇園小学校　教諭　関 匠氏

全校児童1015名（特別支援学級5学級含む全36学級の大規模校。感情のコントロールや生活習慣の課題改善に向け、多様化・複雑化している心身の健康課題解決に向けた取り組み

①睡眠の重要性：十分な睡眠がとれないと心身ともに疲弊し、イライラ・不安になりやすい②ストレスへの対応：不安や悩み、ストレスと向き合い、自分に合った適切な対処法が心の健康に繋がる③感情のコントロール：アンガーマネジメントを通して、負の感情に向き合い、自分と他者の感じ方の違いを理解し、良好な人間関係を構築し、心身ともに健康な生活を送れる。

5．子どもたちが主人公となる居場所創りと、対話が繰り拡げられる学校空間創りへの実践

京都市スクールカウンセラー・
スーパーバイザー　阿部 昇氏

演題の“子どもたちが主人公となる”に、先生の学校臨床の理念が、又、居場所や学校空間“作り”でなく“創り”に、実践の意志と経験がこめられる。開口されるや否やベテランのスクールカウンセラー（SC）の技に引きつけられた会場は、さながら短いワークショップの態をみせた。

コロナ禍でのコミュニケーションの衰退を考察した上で、回復と拡がりを実践動機とされた。

1．児童生徒同志の人と人の“間”を繋ぐコミュニケーションの反復ワークを（1）全身じゃんけん・顔じゃんけん（2）顔面リレー（3）ハンドサインリレーが映像と実演で示された。

2．友達同志の葛藤場面についての教育プログラムによって支えあう関係性の築き方は、友達の定義の見直しによって説得力があった。

1・2には、教職員も共に動いて考え、児童生徒とのよい“間”が生まれる快い場となる。

3．教職員間の対話を活性化するワーク「カウンセリングマインドの森」は、「傾聴、助言、そして対話」というテーマが揚げられている。自己責任を意識し、ひとりで抱え込みがちな教職員の個々のちからをつけるのみならず支え合う関係性を醸成するワークだった。

先生のようなSCが京都で働かれていて、スーパーバイザーを務められていると判り有難い。SCの存在をご存知ない、面識がない、協働の経験がない学校医とSCを繋ぐ役割を担って戴けたらと心弾む。

講評　藤女子大学人間生活学部：庄井良信先生が担当され「心の健康を学び合うウェルビーイング・マネージメント」を各々の実践を讃えながらの懇切な講話だった。その礎となる子どもの“自己肯定感”は、＜Doing＞でなく＜Being＞で育まれると説かれた。これには、教師が、なかなか思うようにできない子どもの痛みに寄り添い、共存的他者として伴走することの意味が明確になった。

次に、最近改めて認識していたネガティブケイパビリティ（negative capability）の紹介には注目した。詩人ジョンキーツ（John Keats）が用い、最近、作家で精神科医の帚木蓬生氏のそのものの書名の著書で話題である。不確実なものや未解決なものを受容する能力や、答えのでない事態に耐える能力とされる。ストレスに直面した際、ストレスに対処するのではなくストレスを受容することも1つの選択肢であると示し、これは、この社会で生きぬく智慧となる。

“心の健康”支援者の在り方を北海道の詩情溢れる言葉で締めくくられ、共有したい。

・この空は、寒かろう　・この風は、冷たかろう　・その内なる＜いのち＞の息吹きを　・共存的他者として　・ほどよい距離感覚をもって　・じっと待つ専門性を高める　・他者とのかかわりの中で　・子どもの＜自尊感情＞を育みながら　・その＜自己治癒＞を、信じて、伴走する人びとの専門性―学校の教員と地域の専門職の人々が子ども理解を深めあって・・・とねがいを込められた。

初参加して　6月の上野千穂先生の研修で「いのちの性の教育」への動機が高まったばかりで、外部の専門家と協働し学校あげての実践報告は垂涎の的だった。このように4演題が、短期効果の見えにくい「予防」の大切さに根ざした教育のちからを示された。もう1題は、最近の小児科の諸学会の課題である“きょうだい”に関心を持ち、医療的ケア児などの家族会の協力で、学校医会が調査分析されたことに感心した。“きょうだい”自身と家族の声に基づいて、具体策を提言されたのには敬服した。

さて、各々に優れた実践ゆえに、却って見すごされる、しんどい子どもの視点から問題提起したい。

1）子ども像への変わらない期待：愛するがゆえでしょう“明るく素直で自尊感情が高い”と自校の児童を評される。けれども、“そうあって欲しい”と学校の理想の子ども像を子ども達に期待されすぎると、それに副わない本当にしんどく、様々な様子をみせる子ども達の居場所がないと危惧する。本当に多様な子ども達が認められる学校であれば有難い。

2）不登校数が減らない結果が課題：行き届いたメンタルヘルススクリーニング後、個別面談を経て働きかけをしたものの、不登校が減らない結果が課題とされる。けれども実践が奏功し、しんどい時は躊躇わず安心して休み、回復をはかる手立てがとれ、子どもと親が納得した上での不登校にメンタルが変化している可能性もある。

3）“早寝早起き”の正しさのみに導く：生涯に亘る健康な生活の基盤である“睡眠”の教育が大切なのは申すまでもない。けれどもしんどくて眠れない、起きられない子ども達は、大変多く、とても苦しんでいる。わかっていてもできない子ども達の罪悪感を増し、状況を更に悪化させ、自己肯定感を殺ぐと憂慮する。

4）アンガーマネジメントで感情をコントロールすることのみに注力する：怒りの感情などをうまく出せるちからを養うことは大切。けれども「キレる、

カンシャクをおこす、暴言、暴力は悪であり抑えるべき」という方針で抑圧されると、子どもは思いを封じ込めざるを得ない。子どもの困った言動には、必ず理由があり、その要因を同時に探って、手立てがとられる必要がある。

積極的に有意義な質問が繰り出された。特に、「リストカット」や子どもが「死にたい」と吐露した時、子どもは厳しい苦境に有り、学校、家庭、専門機関がセーフティネットを即張るよう、阿部先生の助言が共有された。残り少なくなった時間に、懸案として次々に出されたのは教師の負担の過大さで、特に小学校、中でも小学１年生の担任の窮状。参加者１人１人がおもいを至らせ、各々ができることの課題が与えられ、来年の会で協議されるよう期待する。

会場を出て歩いていると、後から「お疲れ様でした」と声がした。司会の札幌小学校長会 野村先生が、発言もしなかったものの興味深そうに聴いていた参加者を労って下さった。先生の学校の「心の健康」の手だてが慮られ、ほのぼのとし、会員の皆様のご参加を願った。

第75回指定都市学校保健協議会　記念講演を拝聴して

顧問　奥　村　正　治

「笑いの力〜ホスピタル・クラウンの現場から〜」の講演題で大棟耕介様のお話です。

大棟耕介さんはクラウン養成講座を受講後クラウンを始め、入院中の子供たちを訪問する「ホスピタル・クラウン」の活動を始められ、2006年にはNPO法人「日本ホスピタル・クラウン協会」を認定された。

彼の話題は一度テレビで拝見している。が、同じ人物とは今日初めて解った。テレビの話題では、病院でピエロの格好をし、風船などを用いて、気難しくなっている子供に語り掛け、入院の子供さんの心を開くという話題のように記憶している。

今日の話では、身長180㎝体重95㎏という大柄も、話題提供のパフォーマンスになる。ホスピタル・クラウンと称し、テレビと同じピエロの姿ではなく背広の姿での話であったが、子供に話題を提供し、これなら仲間になってもよいと思わす話術と、風船などの技術と、パフォーマンスを駆使し、子供の心に入り込んでゆくと、子供からは、笑いが誕生し、笑いと笑いがかっちんこすることで、一時の病気の苦しみを忘れ、病院で一時ではあるが、笑いの中から、次の人に笑いが伝播し、病棟が明るくなる。という話でした。

会場も病人ではないが、講師の話題に入り込まされ、みんなが笑う。和やかな講演になり、受講生の気持ちも集中の方向にはまり込んでしまう。記念講演もホスピタル・クラウンと同じ状態になった。

クラウンをPCで検索すると、トヨタの車のCROWNばかり、話の話題のクラウンはCLOWNである。CLOWNを検索すると、「劇やサーカスなどで、道化役者や道化師を指す言葉」となっている。色々の場面で、一定の方向性を暗示する役割となる。そうなると、ホスピタル・クラウンは一定の方向性とは？笑いに繋がっていると言う事になるようである。

記念講演のレジメより。《過去の講演の様子》からの話題です。

病院を訪問すると、お母さんがよく「自分の子がこんなに笑うってこと、忘れていた」と言う。病院にいるお母さんたちは、疲れている。子どもに対する罪悪感や不安で心は沈む。閉鎖された病院という場所、看病で体も休まることがない。子どもは、そんなお母さんの気持ちを敏感に感じ取ってしまう。お母さんが笑えば、子どもも安心して笑える環境になる。クラウンの活動から体験し、感じ得た「大人が変われば子どもも変わる」という話を通して、気付きと勇気を与えられる講演です。「今という時間を大切に、ひたむきに、そして一生懸命に。」決して押し付けるわけではなく、優しく子どもたちに語りかけてくれる。

この様なお話でした。

第75回指定都市学校保健協議会学校医研修会　特別講演に参加して

東山泉小中学校医　　長　村　吉　朗

今回の特別講演は一般社団法人 日本側彎症学会理事長　独立行政法人国立病院機構 北海道医療センター 院長伊東 学 先生による『小児脊柱変形の早期発見と早期治療の重要性』で、今年から文部科学省による通達により困難となりました学校健診で行う脊椎側湾に対する学会の意見を述べられました

学会声明としては、要約しますと「側湾症の早期発見には学校健診が重要であり、精度の高い健診はプライバシーに配慮が必要であるが着衣では困難である」と言うことです。しかし文部科学省からの通達が出てから言っても手遅れであり、学会としての対応が遅れているとしか思えません。今後は学会としては技量に差がある視触診検査より、モアレやシルエッター等機器健診の導入を働きかけていきたいとの考えのようですが、現在の予算の中でそれが実現するとは到底思えません。また検査にかかる時間など児童の負担も問題であると思われました。

私としては「側湾検診は学校健診から切り離し、保護者による家庭での早期発見に切り替えるべき」であると考えます。

その他治療に関してハイテク機器の導入による患者の負担軽減や術後の良好な結果などが説明されました。

第35回京都市小学生水泳記録会救護班参加報告

常任理事　　守　上　佳　樹

令和6年7月29日(月)この夏一番の酷暑とニュースで発表される中、西京極京都アクアアリーナのメインプールで（50mプール・10レーン）昨年に引き続き開催されました。

個人種目の50m平泳ぎと、50mクロールの種目の二種目男女別で昨年と変更ありませんでした。

出場者は

女子50m平泳ぎ10組93名（欠席1名）
女子50mクロール22組214名（欠席12名）
男子50m平泳ぎ11組101名（欠席7名）
男子50mクロール30組294名（欠席23名）
合計134校702名（欠席43名）でした。

前年度が、合計159校、667名でしたので参加人数は増加傾向でした。

昨年と同様、スタートは飛込みを行わず、入水後プール壁面のタッチでスタートでした。また、今年は五輪もあることで、とのアナウンスの元、少し前までよく聞いた、「位置について、用意(よーい)」ではなく、国際ルールに合わせて2017年から統一された「Take your mark(テイクユアマーク)」の掛け声とともに、電子音のピストルスタートとなっておりました。

救護班は養護教員一人と、私の二人で、現場の教員の方々にも大変丁寧に対応いただけました。8時40分に集合、競技は午前10時に始まり、表彰、閉会式も含め13時頃には終了致しました。

万が一の心肺停止の際の救急車への搬送や心肺蘇生の役割分担など、現場で打ち合わせや搬送コースの視察を行っておりましたが、実際には穏やかな流れでありました。

一人心因性の気分不良、嘔吐の女の子がこられ、状態は安定しておりましたが、不安の面持ちで、予定の競技には参加はできませんでした。

結果的には予定の時間の序列からは離れましたが、最終組の一番端のコースに変更していただき、隣で歩いて担当教諭が付き添い、途中で無理そうであれば助けに入るというプランに変更、無事最後まで泳ぎ切ることができ、拍手が沸き起こっておりま

した。

医療班に関しては、このエピソード以外は特に大きな事故もなく最後まで安定した記録会となっておりました。

また次年度も、何卒よろしくお願いいたしますと教育員会、教員メンバー、スポーツ連盟メンバーに最後にお声がけいただいております。

第 4 回　常任理事会

令和6年9月7日　於　事務局

出席者　井本会長、山内副会長、安野専務理事、大久保・西村各常任理事、平杉耳鼻咽喉科専門医会理事、林議長、長村・杉本監事

会長挨拶

＜報告事項＞

1．色覚相談　9／3　1名
2．成長曲線活用に基づく児童-生徒の健康管理に関する小委員会　9／3
　林、木﨑顧問、松尾先生
3．第3回京キッズＲＵＮについて
　令和7年2月9日(日) 8：15～　杉本・西村
4．梅毒および性感染症に関する研修会への後援依頼受諾
5．令和6年度子どもの健康週間行事「子育て支援シンポジウム」後援依頼受諾
6．第76回指定都市学校保健協議会・学校医研修会
　令和7年7月20日（日）
　於：江陽グランドホテル
7．その他
　10月19日（土）横浜で開催の14大都市医師会連絡協議会で府医理事の武田貞子先生が「学校における産業医の取り扱いについて」と題して発表予定

＜協議事項＞

1．会員へのアンケートについて
2．予防接種の周知方法について市教委より回答
3．就学時健診の代診について
4．令和7年度　新年会について
　1月11日（土）17：00～
5．酒井晃先生の遺贈寄付について
6．その他

＜関連学会・各種協議＞

1．京都市学校保健会　第2回常務委員会
　9／10　14：00～　平杉先生（柏井先生）
　於：京都市総合教育センター
2．色覚相談　9／17　2名
　こどもみらい館4階第二研修室
3．第5回常任理事会　10／5　14：00～
　事務局
4．その他